

研修Ⅰ A 坂出・綾歌 基礎・基本的な知識及び技能の習得，活用する学習を目指して
「感想を伝え合おう—『走れ』—」（東京書籍４年）

1 提案の概要

（１）主張点

- ① 意欲化を図るための単元構成と展開
- ② 自力読みを促すための心情曲線の活用
- ③ 積極的な交流を促し、読みを広げたり深めたりするための感想交流会の設定

（２）具体的な実践

① 意欲化を図るための単元構成と展開

- ア 第１次で、感想交流会の見通しを持たせ、個々の疑問や考えたいことを明確にした。
- イ 第２次では、心情曲線の大きな変化に着目して、毎時、交流した。
- ウ 第３次の感想交流会が単なる「感想発表会」にならないように、単元を通して友だちと交流する時間を設定し、読みを深めていった。
- エ 第３次では、それまでの交流を大切にして、疑問がどのように解決したのか、学習の前後でどのように読みが変わったのか、なぜ変わったのかに視点を当てて交流した。

② 自力読みを促すための心情曲線の活用

- ア 「のぶよ」の気持ちの変化を心情曲線で捉えることが、個々の課題解決につながることを共通理解した。
- イ 「のぶよ」の気持ちが分かる行動や会話、情景描写を見つけていくと、「のぶよ」の気持ちの変化は、「けんじ」や「お母ちゃん」と大きく関係していることに気付いた。
- ウ 自分の見つけた言葉にこだわって交流することで、友だちとの違いや互いのよさに気付き、考えを深めることができた。
- エ 「のぶよ」の気持ちの変化を捉えることで、「のぶよ」に関する学習課題だけでなく、「けんじ」や「お母ちゃん」に関する課題も解決した。

③ 積極的な交流を促し、読みを広げたり深めたりするための感想交流会の設定

- ア 単元を通して、積極的な交流ができるように形態を工夫した。
 - 第２次 主体的に学習に参加させるため、自分で相手を選択してペア交流
 - 第３次 自分の疑問の解決について振り返ったり、読みの深まりを実感したりすることをねらいとした全体交流
- イ 交流後に振り返りの時間を設け、ノートに感想や考えの変容について記録させた。

2 成果

- 個の疑問を大切にした授業の展開により、個の読みのめあてを明らかにしたり学習の見通しをもたせたりすることになり、児童の主体的な学びを促すことに有効であった。
- 心情曲線が、文学作品を読み取るための一つのツールになり、自分の考えを明確にしたり、友だちとの違いを明らかにして捉えたりすることができた。
- 感想交流を重ねていくことで、読みを深めたり広げたりすることができた。

3 課題

- 課題をいったん解決すると、さらなる課題を見つけることが難しかったので、どのようにして課題を持たせ続けていくのか。
- これから出合う文学的な文章の学習の際には並行読書にも挑戦させ、どのように定着させるか、さらにサンプル開発をしたい。